

平成22年度「子どものための国際理解講座」

海外の日本人学校に派遣されていた下記の3名の教員が、現地の最新の様子を報告しました。

今田 雅彰先生（倉敷東中） クアラルンプール日本人学校（マレーシア）

坂本 竜也先生（倉敷旭丘小） 上海日本人学校浦東校（中国）

三宅 貴恵先生（倉敷第四福田小） ジョホール日本人学校（マレーシア）



当日は、(財)岡山県国際交流協会の、創立20周年を記念して、子どもたちを主な対象として、NGOや在住外国人等との交流を通じて国際理解を深めるための様々なミニイベントやワークショップが満載の「夏休み国際理解デー」を開催していました。本会参与の片山先生も、公開授業「インドネシアってどんな国？」というワークショップを、岡山ユネスコ協会代表で、行っていました。また、岡山市立馬屋上小学校全校児童25名に、国際理解の授業を行い、その中で練習したインドネシアの民族楽器アングロンの合奏をしました。インドネシアの歌「ノナマニス」や日本の歌「さくらさくら」を歌とアングロンで、息のあった素晴らしい演奏を聴かせてくれました。

他にも、日本や外国の文化（書道、生け花、ソイルクラフト（植木鉢作り）、民族衣装（韓国、中国、ベトナム、インド、トルコ、アフガニスタン、バングラデシュなど10数か国の衣装）などを体験できるミニコーナーがありました。この衣装も、片山先生が世界の各地から集めたものの一部です。

また、世界の料理屋台が、レセプションホールで設けられていました。外国の珍しくて美味しい軽食やおやつを安価で販売するというものです。ブラジルのパイ、バングラデシュのカレー、ベルギーのワッフル、フィリピンのおやつ、トルコアイス、トロピカルジュースなど盛りだくさんでした。



平成22年度「子どものための国際理解講座」その2

まず、今田 雅彰先生（倉敷東中） クアラルンプール日本人学校（マレーシア）の発表です。



当日は、(財)岡山県国際交流協会の、創立20周年を記念して、子どもたちを主な対象として、

NGO や在住外国人等との交流を通じて国際理解を深めるための様々なミニイベントやワークショップが満載の「夏休み国際理解デー」を開催していました。本会参与の



片山先生も、公開授業「インドネシアってどんな国？」というワークショップを、岡山ユネスコ協会代表で、行っていました。また、岡山市立馬屋上小学校全校児童25名に、国際理解の授業を行い、その中で練習したインドネシアの民族楽器アングロンの合奏をしました。インドネシアの歌「ノナマニス」や日本の歌「さくらさくら」を歌とアングロンで、息のあった素晴らしい演奏を聴かせてくれました。



他にも、日本や外国の文化（書道、生け花、ソイルクラフト（植木鉢作り）、民族衣装（韓国、中国、ベトナム、インド、トルコ、アフガニスタン、バングラデシュなど10数か国の衣装）などを体験できるミニコーナーがありました。この衣装も、片山先生が世界の各地から集めたものの一部です。



また、世界の料理屋台が、レセプションホールで設けられて

いました。外国の珍しくて美味しい軽食やおやつを安価で販売するというものです。

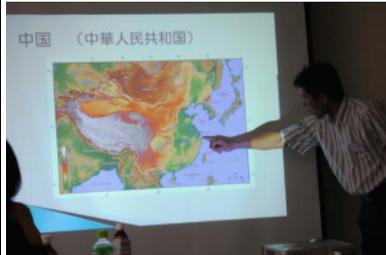
ブラジルのパイ、バングラデシュのカレー、ベルギーのワッフル、

フィリピンのおやつ、トルコアイス、トロピカルジュースなど盛りだくさんでした。



平成22年度「子どものための国際理解講座」その3

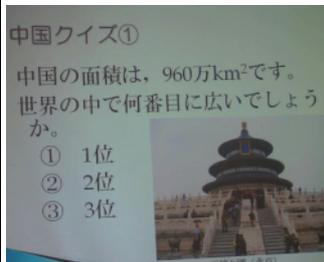
次は、坂本 竜也先生（倉敷旭丘小） 上海日本人学校浦東校（中国）の発表です。



上海は、岡山から直行便があり、2時間ほどのフライトで訪れることができます。坂本先生は、クイズ形式で話を進められました。

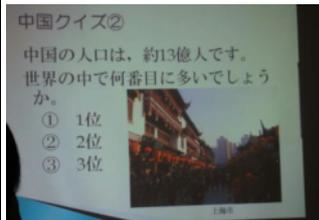
中国クイズ

中国の面積は、世界で何番目でしょう。答えは、ロシアとカナダに次いで、世界第3位です。



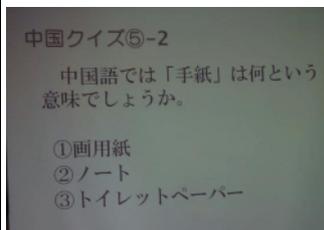
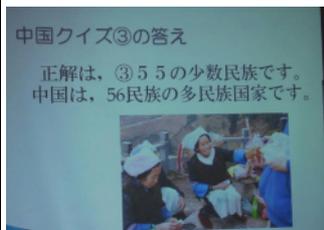
中国クイズ

中国の人口は、世界で何番目でしょう。答えは、世界第1位です。インド・アメリカ合衆国と続き、日本は世界第10位です。



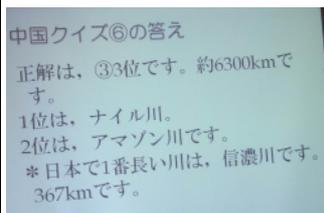
中国クイズ

中国には、少数民族がいくついるのでしょうか。答えは、55です。現在、「少数民族」として分類されているのは、アチャン族（阿昌族）・イー族（彝族）・ウイグル族（維吾爾族）・ウズベク族（烏孜別克族）・オロチョン族（鄂倫春族）・カザフ族（哈薩克族、ハザク族）・キルギス族（柯尔克孜族、クルグズ族）・高山族・ジン族（京族、越族、ベトナム族）・ハニ族（哈尼族）などです。



中国クイズ

中国語で「手紙」は、何という意味でしょうか。答えはトイレトペーパーです。



中国クイズ

上海を流れる長江は、世界で何番目に長い川でしょう。答えは、ナイル川とアマゾン川に次いで、世界第3位です。

平成22年度「子どものための国際理解講座」その4



次は、上海についてお話しします。まず人口は、2,000万人近い中国最大の都市です。世界で1番は、インドのムンバイで、上海の4分の1しかないのに、約2,100万人が住んでいます。中国の人口は、約13億人で世界第1位ですが、もう30年も前から、一人っ子政策をとっているのです。将来はインドに抜かれると言われていています。一人っ子政策には例外があります。漢民族以外の少数民族と、お金持ちです。2万元(約30万円)を支払うことができるお金持ちは、それを払って2人目の子どもをもつことができるのです。

私は、上海では20階建てのマンションに住んでいました。長江の河口に位置する上海には、このようなマンションが乱立しています。家賃は、80平米で20万~25万円くらいです。家賃は高いですが、食品などの物価は日本より安いです。スーパーマーケットには何でもあって、日本と変わりません。また、市場で買うと、値段はもっと安いです。

私が勤務した上海日本人学校浦東校には、小学生が800人、中学生が600人通っていました。学校は、上海市の中心部より黄浦江を隔てて東側の浦東開発地区にあります。虹橋校の急激な生徒増加に対応するために、日本国の補助金と上海日系企業からの多額の寄付金によって平成18年4月に新設されたばかりの校舎です。全館冷暖房完備の校舎は、木材をふんだんに使った普通教室以外にも多くの特別教室や少人数指導のための小学習室、広くて明るい図書室などがあり、2つあるPC室には合計80台のパソコンを導入するなど最先端の教育機器を導入しています。その他にも、約2万平米の敷地には体育館、屋内プール、武道場、200m全天候型トラック、通学バスのための駐車場等の恵まれた教育施設が整っています。

最後に、私は中国の民族楽器「二胡」を習っていたので、聴いて下さい。二胡は、蛇の皮でできているので、買って帰るのに手続きが必要でした。

平成22年度「子どものための国際理解講座」その5

次は、三宅 貴恵先生（倉敷第四福田小） ジョホール日本人学校（マレーシア）のお話です。



ジョホールは、シンガポールと隣接しています。左の写真の、ジョホール水道を挟んで、向こう側がシンガポールです。通勤通学時間になると、1 kmの道が、大混雑になります。ひどい時には、5時間もかかったことがあります。物価が安いマレーシアから、シンガポールに働きに行く人が多いのです。例えば、ガソリン1ℓの値段を比べると、マレーシアは約60円。それに対して、シンガポールは約180円もするのです。シンガポールで働くと、給料も3倍ということになるでしょう。



ジョホールの街にも、日本の企業やお店がたくさん見られます。Panasonic・Sony・Sanyoなどの電機メーカーや、Honda・Toyotaなどの自動車メーカー、Juscoなどのスーパーもあります。お店の中には、日本料理店があったり、たこ焼き屋があったりします。



ジョホールは、熱帯なので、日本では見られない食べ物や生き物が見られました。写真は、果物屋さん並ぶドラゴンフルーツです。果肉は白もしくは赤いゼリー状で豊富な果汁を含んでおり、果肉を食べたときにキウイフルーツと同じようなシヨリシヨリとした食感があります。は、いろいろな種類のバナナです。平均すると、1房70円ぐらいです。煮たり焼いたり揚げたりするバナナもあります。



はオオムカデ、は大セミ、は大ゴキブリです。熱帯なので、大きく育つのでしょうか。学校には、オオトカゲや毒ヘビまで現れたことがありました。

